

リキみすぎた〜
懐かし北海道
そして我が友たち

3年B組, Atsushi Saito.



〜合宿で、人間は変わるのだろうか〜

◇ 出会い

我がクラブでの合宿における班編成は、
全くの偶然性を待ぼうと、如何なる班が
できあがるかは、事前には見当もつかない。そ
の別にも「オ、この班も、ただ偶然のみが
もたらしたもので、なんの必然的根拠もな
い。しかし、この班の member が決定し
た時点では、あの酒井を除いては、あ
るともだち」と思っていたのだが、...

酒井が〇〇〇だとは知らなかつた。
おどろしい限りだ...

◇ フェリーにて。

フェリーでは、theory通り、金のある食
店などへは行かず、空腹を麻雀でいやし
ておりました。いや、しかし、副島の
ボツの後の、 切りクリートには、
まいった。

(酒井×モ) フェリーで祭情!!

...あの女の隣に種中だったのを
いつまでも悔む

◇ 釧路～霧多布

フェリーで釧路に着き、厚岸を経て霧多
布に到着。出発前、永見おじさんなら、
聞いていた霧多布のガゼリの坂にもめげず、
本日の走行距離は、90 km

(酒井×モ)

霧多布の少し手前で、女子中学生を見つ
け、思わず手をふる。ヨダシをたらしながら。

◇ 霧多布～根室 $\frac{R_1}{R_2}$ / サッポロ山甲.

- 昨年 / サッポロ山甲で食べた「花咲か」の味が忘れられず、再び訪ずれたのだが、既に「花咲か」は売り切れていた。しかたなく、根室の駅前で買ったカニを我々の宿である駅近くの公園（この前もここだった）で食べたら、おいしかった。「うかほにも、うまい！」などと酒を飲みつつ、ダジャレを言って、走行距離を考えると、110 km

酒井 X 毛

マサガエタ～

厚床駅で、実践女子大の2人[↓]と会い、思わず〇〇する。その2人は、春別方面へ行ってしまったので残念がる。私は、酒井を非難しなから、むしろ冷静になろうと努めた。

◇ 走行距離.

その後の3日で、 $105 + 100 + 100 =$

… 305 km。これは $90 + 110 = 200$ をたして

505 km になる。 $505 / 5 = 101 //$

なんと 101 km/day (average)

ニ子では、冗談でたてた計画がその子実行された。しかし、私はニ子で「だ」と思ったのだが、

◇ 恐怖の穴掘り

いつの頃からだろうか、ダジャレの神様、高橋氏の影響か、それとも名取博士の陰謀か、我が班に、ダジャレが侵略してきて、口を開くと、それが80%の確率でダジャレになるという(況^状)が訪ずれた。この傾向は、2、3年に特に強く、かくして、ダジャレ合戦が展開されるにいたった訳である。私は、初めのうち、高尚なジャレしか言わぬつもりで、三井もそういう傾向だったか、次第に酒井のレベル以下がってきてしまった。これは、その回数が多さによる純度度の低下(「古木さん、変な想像ほしないで下さい!」)と、環境に順応したことが原因と考えられる。そして、何故だか、酒井のレベルが、いやは、

ダジャレ potential の基準としたり、しかも
それだけ地上での重力 potential との一致を
みることとなった。

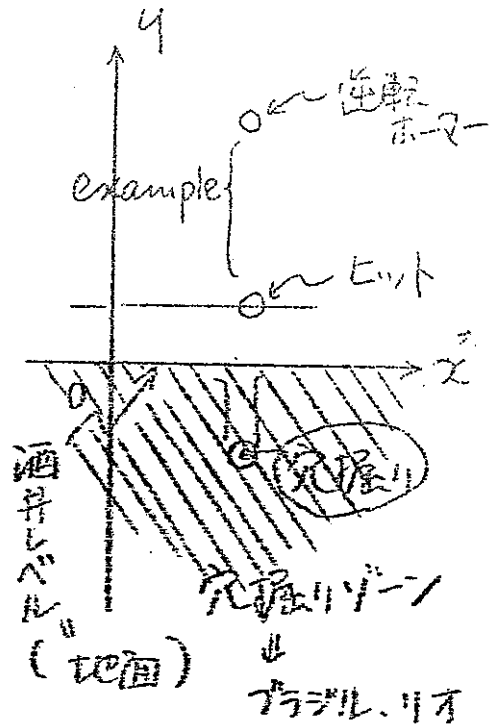
よからず、酒井レベル
以下のものは、地面
の下、即ち“穴掘り”
と見る誤りである。

(わかるかあ〜?)

穴掘りは、合宿
後半程まで、
穴を掘りすぎて、

ラジアルへ行きつくということに
なりました。そして、最後には、
リサのカーニバルでおどろと
いったエスカレーターぶりを見せた。
(そのレベル決定は、合議制で行った)

このダジャレ合戦は、この我々の一つの
key point だったと思う。このおかげで、
合宿のムードは非常によくなったと思う。



私は、合宿での夕ジャレをおすすめします。
後輩諸君、三井君、石田君、深緑君……
(提供: 日本夕ジャレ協会)

こんな標指があったぞ〜

飲んだら乗るな
飲むなら牛乳!
さすが Hokkaido.

◇ 合宿での酒について、(酒呑みの自己弁護)

今回の班では、紅顔の美少年 三浦君が、
〇〇の〇〇〇 副島とは対称的にあがり
酒を受けつけないので、酒は、共通費では、
なく、個人的に買うようになった。私はも
ほら、小川さんの好きだった GODO ショウキ
ウ、三井は、さくら、日本酒、ウイスキー、
副島は、生意気にウイスキー only、酒井は、
節約してあがり飲まなかった様子、さくら、
何を飲んでいたのでらうな…? とにかく、

酒を飲むのは、ほとんど夕食後のテントの中で、
走行距離の算出やら、明日の予定やら、中い
中いがやがやとやって、大分（おおいだではありま
せん）酔いがかよると、声も大きくなり、時に
は、歌なごも歌ったりした時あ...

（だいが先人の手記らしくなると、人ほくそ
えんざりして...） 私は、この時間が一番楽
しかった。（勿論、合宿中ず〜と楽しかっ
たけど）

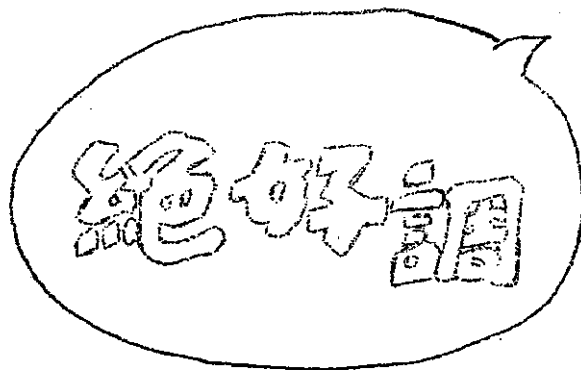
◇ 結論 （原稿提出を迫られているので）
この辺でやめることにしよう。

今回は、非常に天気にもめぐまゆ、冗談でたてた
計画の8割は、実行できたので、まずまず満足
している。合宿で生活を共にすると、他の奴の
人間性が見えてきたりして、或いは、その人間
が変化していくのがわかったりして、なかなか
おもしろい。そういう意味でも、合宿へ
参加するのは、意義があると思う。

◇ 他己紹介

(合宿とは関係がありません)

古木さんについて



酒が好きで、女が好きで、麻雀が好きだ。三拍子をとった我部の長男。
人間的には、理系よりも文系的人だ
ほうがいいかと私は見ておきます。いろいろ
臭いで、センスのよさが目立つのも忘れら
れません。